

2019年8月9日(金)～12日(月)



日本・台湾「けん玉道、交流の旅！」 ～世界に広げよう けん玉のわ・輪・和～

公益社団法人日本けん玉協会 副会長 矢野 博幸 (けん玉道九段)
世界けん玉道選手権大会チャンピオン 小川 大賀 (けん玉道六段)

★ はじめに

この度は、(公財)日本台湾交流協会様より、親日で有名な台湾においてけん玉の講座を催行するお話をいただき、大変感激するとともに、是非とも台湾でもっとけん玉を普及させたい！という熱い想いが体の内から湧き上がるのを感じました。

けん玉は、かつては「とめけん」「日本一周」「もしかめ」のような技に代表される子供の遊びのイメージでしたが、2012年頃にアメリカのスノーボーダーやBMXを楽しむメンバーが、素晴らしい景色でノリの良い音楽に合わせてアクロバティックな技を繰り出すスタイリッシュな動画を出し続けた結果、多くの海外の若者がけん玉をするようになり、技の高難度化、多種多様化が起こり、子供の遊びというイメージが完全に払拭されました。

今ではけん玉の取り組み方も、単なる子供の遊びやレクリエーションから、競技を主体としたスポーツ、自己表現のためのアートやパフォーマンス、果ては心身鍛錬のための芸道・武道まで様々

です。またその効果・効能も、集中力、リズム感・バランス感覚や忍耐力の向上、達成感・充実感・自己肯定感の獲得、心身のリフレッシュ・気分転換そして体力・健康増進と、屋内外を問わずに手軽にできるものとは思えないものがあります。そしてけん玉は遊びの場のみならず、職場、教育・医療・福祉施設、国際交流の場などでも多く用いられ、老若男女や国籍を問わない優れたコミュニケーションツールとして活躍しています。

特に最近では、新型コロナウイルスの影響により日本においてけん玉は「おうちでできる健康増進・気分転換ツール」として、にわかに注目を集めています。

★ (公社)日本けん玉協会とは

私たち(公社)日本けん玉協会(以下、「JKA」と言います。)の使命は、この日本の誇るべきクールな伝統遊戯であるけん玉を普及・発展そして継承することです。JKAは、1975年5月5日に映画「南極物語」の原作となった「タロ・ジロは生きていた」の著者で童話作家の藤原一生さんが初



代会長となり創設したもので、今年で45周年を迎えます。藤原会長は幼い時に両親を失い、キリスト教の施設で育ちましたが、その傍らにいつもけん玉があったことから、是非これを世界に広めたいとの想いでJKAを創設しました。

私たちはこの想いを継承しつつ、けん玉大会の開催（けん玉道日本一を決める競技会、地方へのけん玉普及促進のための大会、国際大会等）、級・段位の審査・認定、指導者の育成・認定、協会公認けん玉の認定、けん玉教室の開催及びその他の普及活動を行っています。

これらの事業を推進するにあたり、JKAはけん玉を単なる遊びではなく、その基本理念を「けん玉道」として普及活動を行っています。けん玉は、いざ人前で行おうとすると緊張で動悸がして手が震え、雑念で集中力を欠き、また、技術の不足等の心技体の未熟さゆえに、なかなか思うようにはならないものです。「道」とは、ある辞書によれば「人格の完成を目指すものであり、ひとつの物事を通じて生きざまや真理の追究を体現、又は自己の精神を修養するもの」とあります。けん玉道は、芸道であり武道です。芸道として、技を錬磨し、極めることにより、また、武道として、尊敬すべき相手・同志との試合を通じてお互いに切磋琢磨することにより、これを目指します。よって競技会等では、指導者、先人、仲間、歴史（遺産）等を敬う心とこれの表出である礼儀（あいさつ、誠実・素直さ等）、奉仕の精神、けん玉等物品の愛護、心技体の修練を重んじ、選手、審判、応援者等その場にいる全ての者がこれに則った振る舞いをすることが求められます。

恥ずかしながら今回台湾に行くことになり、初めて、日清戦争の勝利などで日本及び日本人に対する関心が高まっていた時期に『武士道』を著した新渡戸稲造が、サトウキビの品種改良と大規模な製糖工場の建設等によって台湾における糖業発展の基礎を築くことに貢献し、台湾糖業博物館（高雄市）に「台湾砂糖之父」としてその胸像が置か

れていることを知りました。

また、JKAには小学校の教諭等教育関係者が多数在籍しておりますが、吉田松陰の甥の楫取道明他6名の日本人教師等が犠牲となった芝山巖事件と神社の創建・破壊、伊藤博文揮毫による「学務官僚遭難之碑」の話を知り、先人の教育に対する使命感に胸を打たれました。

これらのことは、JKAの普及活動に相通じ、私たちが見習わなければならないことです。今も現地の人々に尊敬される多くの先人が存在する台湾において、日本台湾交流協会様主催の下、けん玉普及活動ができることに無上の喜びを感じるとともに、私たちが気持ちを新たにこの活動に臨まなければならぬと思いました。

★ さあ「台湾へ行くぞ！」

～台風接近に伴い不安が的中か？～

このように人生初の台湾訪問に向けて期待と喜びに胸を大いに膨らませていたのですが、なんと台風9号が8月4日にフィリピン東に発生し、台北を通過して中国浙江省を通るとの予報！我が家のある大阪には接近しそうなないので家族を始め周りのはのんきに「お父さんが行くところは雨がなくて、半端ない豪雨になるからなー」などと言っています。見事に自他ともに認める雨男の本領が発揮され、台風は8日から9日にかけて台湾の東から北に走り抜けました。9日午前のフライトが夜間に変更となり、この日の18:30から予定されていた台北での「けん玉講座」は残念ながら中止となってしまいました。

結局、その日は夜中の12時頃高雄市のホテルに到着となりましたが、機内で小川大賀選手と綿密な打ち合わせを行い、高雄市到着時には深夜・荒天にもかかわらず日本台湾交流協会の又平様、吉田様の温かいお出迎えをいただいたこともあり、明日以降のけん玉講座では台北の中止の分も取り返すべく頑張ろうと、いやが上にも気合が入りました。

★ 高雄市「けん玉講座」

8月10日（土）午前11時にホテルを出発し、車で会場の高雄市武徳殿（振武館）へ向かいました。



た。この施設は日本による台湾統治時代の創建で、今でも武道場として日本との親善試合等も行われています。また、台湾には他にも武徳殿があり、文化・教育施設や市民のコミュニティスペース等として残されていると聞き、日本人として大変うれしく思いました。

台風の影響で少ないことが懸念された参加者も、けん玉講座が始まる午後2時が近づくに連れて少しずつ増え、最終的には82名が参加し、大阪よりやや蒸し暑い気候と冷房のない歴史的建造物内での記念すべき第1回目の台湾「けん玉講座」は、自ずと汗だくになりながらの熱気あふれるものとなりました。

まず初めに主催者側の日本台湾交流協会の又平様より講座の趣旨と私たちの紹介をしていただきました。続いて私が通訳を入れながら挨拶をしましたが、中には日本語がわかる方が数人いて、時折話の中でユニークな話を入れると即座に反応してくれました。

いよいよ講座の始まりです。まずはパワーポイントを使って簡単にけん玉について知ってもらい講義、続いて実際に参加者にけん玉をしてもらう体験実習です。講義では、「けん玉の歴史」について、けん玉は、その原型となるものが古くから世界中に（例えば16世紀フランスの国王アンリ3世も愛用したと言われるビルボケ等）ありますが、日本では少なくとも江戸時代から宴席等で遊ばれ、大正時代には現在のけん玉の原型となる日月ボールが日本中で流行し、今では日本人であれば誰もが一度は遊んだことがあるものになったことを話しました。皆、世界中にけん玉と同じような玩具が昔からあり、大人がヴェルサイユ宮殿などでも遊んでいたことについて非常に驚いていました。続く「JKAについて」では、既述の初代藤原会長によるJKA創設の話や、特に私たちがこれまで大切にしてきた「けん玉道」精神について話しました。

一通りの講義を終えると、いよいよ実際にみんな

なでけん玉をして遊びます。まずは、けん玉の持ち方、構え方を教えます。けん玉はノウハウの塊で、ちょっとしたコツをきちんと教われればその場で想像以上の種類の技ができるようになりますし、上達も格段に早いです。実際に玉を引き上げる動作と体の使い方などを楽しく、できる喜びをみんなで共有・増幅しながら実技指導を展開していきました。

盛り上がったところで、みんなで級位認定会を行いました。10級の技である「大皿」から段々と技が難しくなり、級が上がるにつれて脱落者が出てきます。最初はできて喜んでいた人も、7級の「ろうそく」あたりから徐々に真剣な表情になり、緊張感と歓喜が入り混じる中、皆で励ましあいながら認定会を進めました。級位を取得した人には認定証をその場で手渡しましたが、皆、きっと家に持ち帰って色々なところで今日の一生忘れられないような体験を面白おかしく伝えてくれることでしょう。

最後に、世界チャンピオンの小川大賀選手によるパフォーマンスを披露しました。糸のついていないけん玉で、アクロバティックな技をどんどん繰り出す様子に会場全体が息をのんで魅せられ、演舞が終わると万雷の拍手に包まれました。是非読者の皆様も、一度その目で実際にご覧になれることをお勧めいたします。

台湾で初の「けん玉講座」も終わってみればあっ



という間で、参加者からはけん玉の練習をもっとやりたい、けん玉はどこで購入すればいいのかと言った質問を何度か受けるほど、けん玉を楽しみ、関心を持っていただけたようです。悪天候に見舞われ不安な立ち上がりとなった私たちの旅も、お陰様でなんとか軌道に乗ったようでした。

★ 高雄ハワードプラザホテル（高雄福華大飯店）でのけん玉パフォーマンスと台湾けん玉協会「中華剣玉運動協會」等メンバーとの交流

夜は宿泊しているホテルから依頼があり、ホテルのロビーでサプライズパフォーマンスを行いました。ロビーと言ってもそこは吹き抜けになっていて、階上のフロアやエレベーターホール、エスカレーターから眺めている人もたくさんいます。多くの方に楽しんでいただけたようで、早速ホテルのFacebookページで紹介されていました。



<https://www.facebook.com/125510882375/posts/10157621111672376?s=100000341731442&v=e&sfns=mo>

台湾のけん玉プレイヤーは毎週定期的に集まって練習会を行っています。一部のメンバーとは夕食をともにし、そのまま午後10時まで練習会に参加しました。その時にもまた、阪神百貨店のデパート広場でさながらフラッシュモブのように小川大賀選手がパフォーマンスをしました。台湾のけん玉プレイヤーはもちろん、道行く人も足を止めて拍手喝采を送り、広場全体のボルテージを一気に最高まで押し上げることができました。

★ 台南市「けん玉講座」

11日(日)は高雄市から車で1時間移動し、台南市台南文創園區古蹟出張所へ向かいました。参加者は、56名と昨日よりやや少なめでしたが、日本人の親子や台湾けん玉協会のメンバーも駆けつけていただき、大変盛り上がったものになりました。



た。

中にはお年寄りの方もおられ、健康増進に役立つのであればと、とても興味深く話を聞いておられました。現にJKAでは近年、高齢化社会を反映してか「健康けん玉講座」のニーズが大変増えていて、医療・福祉施設でのフレイル予防運動やフィットネスクラブでの高齢者向けプログラムへの支援依頼に応じています。その効果が抜群なのか、会員の中には今年96歳で左手にハーモニカを持って「もしかめ」の曲を演奏しながら右手で「もしかめ」の技をフルコースで行う方がいたり、85歳を超えて児童館等でのけん玉教室を年間200件以上こなす方もおられます。

さて、今回の講座でも級位認定会を行いました。なんと1級を取られた方がいたので、皆の前に出て、けん玉を披露していただきました。とても緊張したようですが、大変盛り上がった素晴らしいパフォーマンスとなり、みな大喜びでした。

★ 日本台湾交流の懸け橋として

けん玉は日本においても、古くて新しいものとして最近注目を浴びています。年末の紅白歌合戦では三山ひろしさん(協会会員、けん玉道四段)が3年連続で芸能人や一般の方々とギネスに挑戦していますし、フィギュアスケートの羽生結弦選手が趣味としてけん玉を行っているのも有名です。中には古賀稔彦さんのように、子供たちの柔道教室で真剣に練習メニューとして取り入れている方もおられます。

また、国内のみならず、20を優に超える国・地域の方々が日本のけん玉大会へ参加し、日本以外の国・地域でもけん玉大会が開かれるようになっています。

台湾においてもけん玉が普及してきている手応えは十二分にあります。しかも台湾はけん玉プレイヤーだけではなく、JKAは公益社団法人であるため、競技会や段位認定等の公平・公正性を担保すべく、安全で均質なけん玉を確保しな

ければなりません。そのため認定けん玉製造業者には極めて厳しい基準を設け、高い技術と信頼性を要求していますが、これまで日本国内で数社、海外では唯一台湾で一社しか合格していません。その私たちにとっては「日本精神」の体現者として信頼していた「Yumu Kendama」様が昨年9月、主として財政的な理由によりけん玉製造を止めてしまったのは大変残念なことです。いつか復活、又はこれに続く新たな認定けん玉製造業者が出て来てくれることを切に期待しています。

JKA では私も含め、これまでアメリカ、モンゴル、中国、フランス等で多くの会員が普及活動を行ってきました。今回実際に台湾でけん玉講座を行い、台湾がJKAの国際的なけん玉普及活動の中心的な地域となり、またそれが会員の人格形成に素晴らしい効果を及ぼすことが期待できることを確信しました。私個人としても、今回できなかった台北へはもちろん、毎年台湾への訪問ができないかと考えております。

改めまして、この度の日本台湾交流協会様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後のご活躍とご発展を祈念いたします。JKAも、今回の台湾「けん玉講座」を足掛かりとして、国際的なけん玉普及活動を少しでも推進していきたいと思っております。今後とも末永くお付き合いのほ

ど、よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

★ 日本の“けん玉の妙技”を見ていただけて幸せでした！

全日本けん玉道選手権大会 優勝（2回）

世界けん玉道選手権大会 優勝（2回）

2018、2019 全日本けん玉パフォーマンス大会

V 2 優勝 小川 大賀（けん玉道六段）

私は、初めて台湾に行きました。小学1年生でけん玉を始め、あしかけ10年で全日本けん玉道選手権大会で優勝することができました。また世界けん玉道選手権大会～藤原一生杯～でも優勝2度の世界チャンピオンにもなりました。

台湾でのけん玉交流では技のやり方やコツといった技術的な部分だけでなく、けん玉に関する歴史やけん玉をすることで得られる効果などについても理解を深めてもらえたのではないかと思います。またけん玉を使った遊びを通して楽しさや達成感も味わってもらえたと思います。

今回は外国でのけん玉講座であったため、直言語の部分での不安がありましたし、実際うまく伝えられなかったところもありました。しかし言語では伝わらなくても心では一つになれたような、そんな講座になったのではないかと終わった今では感じています。さらに今回は台湾のけん玉プレイヤーとの交流もあり、そこで台湾での活動



やどういった技に取り組んでいるのかについて知ることができました。台湾が親日ということはなんとなく知っていましたが、現地で得た体験はやはり本物でした。

日本も台湾から多くの影響を受けていると思います。こうした関係がこれからも続くように、台

湾と日本の懸け橋の一つとしてけん玉が取り上げてもらえたら嬉しい限りです。

けん玉講座に参加された方々、お世話になった日本台湾交流協会の皆様、台湾けん玉プレイヤーの皆さん、本当にありがとうございました。